

第3回 国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会議事抄録

日時：2025年2月10日（月） 13時18分～15時14分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）石原安野委員（Zoom）、河野孝太郎委員（Zoom）、住貴宏委員（Zoom）、高田昌広委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、濤崎智佳委員、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）山田亨委員

（台内）竝木則行委員、藤井友香委員（副委員長）

陪席：

（台内）土居守台長、藤田常事務部長、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 出席者確認

出席者の確認を行った。

1.2 第2回議事抄録の確認

1月21日に開催された第2回国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

また、今回議論する予定としていたサイエンスロードマップ報告書における分野分けのリストについて、次回の委員会で議論することとした。

2. 報告と議論

2.1 運営会議報告

1月28日に開催された第122回国立天文台運営会議へのSRM検討状況及び将来シンポジウム開催概要の報告と会議での議論について紹介があった。

2.2 SRM提案の取下げについて

LOI8番「PRIMAによる遠赤外線天文学の推進」の提案者からLOI取下げの申し出があったこと、及び取下げの経緯について報告があった。

また、国立天文台執行部から提案者に対し、国立天文台の研究者が個人研究の範囲で同計画へ参加することは妨げない旨の回答を行ったことについて、報告があった。

最後に、取り下げられた提案に関連するキーワードである「遠赤外線」は何らかの形でサイエンスロードマップに取り込むことを検討することとした。

(主な意見交換)

－PRIMA のように、非常に重要な国際的ミッションにおける国立天文台の立ち位置については慎重に検討すべき。提案がなくとも国立天文台のリソースを割くことになるものについて、周边的にサイエンスロードマップに載せるといったことも議論しておくべき。

－国立天文台の中に組織を作ることが提案の基準となるのであれば、改めて各提案者に展開する必要があるのではないか。国立天文台のリソースを使うつもりはなくとも、サイエンスロードマップで取り扱われることが宇宙科学など他の分野に提案していく上でも重要と考え提案している場合も複数あるように思う。

－提出された LOI にも（検討の度合いに）色々な幅があり、これから本委員会で議論すればよい。その中で、PRIMA は取り下げられたが国立天文台が貢献することが適切である、となればしっかりメンションしておくことが大事である。

－ロードマップに載っていないものには全くリソースを割かないということではない。サイエンスが進む中で、新たなリソースの要求が出てくることは想定すべき。持っているリソースの一部を割けるだけの余裕を持つておくことが望ましい。

－今回 LOI が提出された中にもそのようなカテゴリーに入るものは複数あるかと思う。米国のディケイダルも、後半部分にサイエンスドリブンで今後に芽が出るような分野を並べて挙げている。

－PRIMA に関しては、何らかの形で遠赤外線のキーワードをサイエンスロードマップに入れるよう考慮することとしたい。

2.3 SRM 提案の修正について

前回の本委員会で大幅な修正を承認した天文データセンター（ADC）の LOI について、「大規模広視野観測検討グループの構築」として再提出され、受理したことについて報告があった。

2.4 提出された SRM 提案について

サイエンスロードマップ提案書の提出状況について報告があった。

2.5 今後のヒアリングの進め方

ヒアリング実施方針等について前回の議論を踏まえた変更点について説明があった。

ヒアリングの主担当の人数及び各委員への割り当ての案について説明があり、原案のとおり承認された。また、主担当の中でイニシアティブをとる者を委員長が台内委員から指名することとした。

共通して質問する事項について各委員から意見出しを行い、RIX(Review Item Comment /Question /Discrepance)を作成し、提案者へ送付することとした。

意見交換の結果、提示された評価軸のうち、提案のカテゴリーによって説明が困難な項目については各提案での検討状況を把握することを主な目的とし、その認識を本委員会と提案者の双方で共有したうえでヒアリングを行うことを確認した。

(主な意見交換)

ーフロンティア事業、運営費交付金、外部資金など提案のカテゴリーによって評価軸は異なる。「必要な天文台のリソースが把握できているか」、「次期中期計画期間の実施内容が明確か」という評価軸は、外部資金で実施することとしている提案にとって現時点では説明が困難である。

ーどちらもサイエンスロードマップを作る段階である程度抑えておかないと実施計画を作る時に非常にしわ寄せがいく。色々な境界条件や不確定性があるといったことも踏まえて、サイエンスロードマップに載せていくことが重要である。

ーサイエンスロードマップは中期計画という言葉が前面に出たスケジュールの縛りになっている。フロンティアや宇宙科学など様々な計画のスパンとは合わない。

ー大事なのはそのような意識を持って提案しているかである。その点を確認するためにも、どちらも評価軸に入れることとしたい。

ーその項目は検討状況を把握することが主な目的である、ということを双方で共有してヒアリングを行うことが必要である。

ー拠点形成の提案もそのような質問に回答するのは難しいのではないか。また、国立天文台の中に組織を作ることが前提であれば、提案した側がそのことを意識しているのかも確認が必要である。

ー組織を作ることに関して、国立天文台側がどのような枠を用意するのも非常に大事である。ヒアリングを通じてどのような組織を作りたいのかを提案者に明確にしてもらい、それを要求として検討できるようにするのがよい。

ー確認したい情報を聞き出すようなフォーマットを用意するのがよい。カテゴリーごとによって聞き方が異なるため、それを判断できるような問いかけを執行部で検討して欲しい。

ー共通で質問すべき事項があれば、各委員で RIX に書き込む形で進めたい。また、ヒアリングの優先度が高いカテゴリーから作成することとしたい。

ー野辺山と東アジア VLBI など、関連する提案を比較するために両方のヒアリングを担当する委員がいなくても良いのか。

ー必要に応じてヒアリングの録画を見て対応してもらいたい。

ー（高橋）提出された提案書の要求額はプロジェクト側の言い値である。実施計画に向けてヒアリングで実際のところを確認していきたい。

ーむしろ実際より低く見積もられている可能性が高いことを危惧している。為替や人件費高騰などの影響を考慮してヒアリングを行う必要がある。

2.6 利益相反の考え方について

サイエンスロードマップ策定における利益相反の考え方と取り扱いに関して案の説明があった。

続いて意見交換を行い、次回の本委員会で再度議論して確定することとした。

(主な意見交換)

ー利益相反に該当する委員は当然何らかの情報を持っており、むしろその情報は提供

してもらったほうが良い。意思決定に参加しないことは重要だが、議論の過程において完全に排除することはしなくて良いのではないか。

2.7 今後の委員会開催日程

次回の本委員会の開催について確認を行い、3月10日に開催することとなった。

2.8 その他

各提案者へのヒアリングについては実施時間を1時間とすることを確認し、日程調整を進めることとした。

以上